

濃い一年

機械・社会環境系 1年 石川 峻平

この北見工業大学弓道部に入部してから過ごした一年間は、とても内容の濃いものだったと思う。思い返せば、四月下旬まで入部するか迷っていた。いざ入部を決断した時には新入生歓迎会（以下、新歓と略す）に間に合わず、その次の日の道場での的貼りから参加となったが、周りからしたら本当に誰だコイツ状態だっただろう。新歓に出ていないため顔と名前が一致する人などほぼおらず、同級生が誰なのかもわからなかったのも、当時初めて会話に成功した一年生の桑田(仮名)に聞いてみたが何を言っているのかほとんど聞き取れなかったため適当な相槌を打つことしかできず、結果その日はしばし孤独を噛みしめることとなった。今となっては良い思い出である。

弓を引き始めてからはいろんな試合や大会に参加させていただいた。入部して一か月足らずで札幌に行ってI部校戦に出ることになったのはさすがに驚いたが、いい経験をさせてもらったと思う。温泉も良かった。当時はI部やII部などのリーグのシステムを詳しく把握していなかったために気楽に試合に臨めていたかもしれないが、選手権などの大きな大会を通じてI部の大学はもちろん、他大学のレベルの高さを改めて実感したし、緊張こそするが規模の大きな大会に出る機会を得たからには成績を残したいという気持ちが前にも増して強くなったのを感じた。

夏には日本武道館で行われたインカレに出場することができた。まさか UVERworld や ONE OK ROCK のライブより先に弓道で武道館デビューするとは思ってもみなかったが、全国の大学の弓道を生で見ることができるのはまたとない機会であったし、楽しみでもあった。男子団体の対戦を見ていて、道内屈指の大学をも凌ぐ他大学の強さは凄みを感じた。格の違いをまざまざと見せつけられているようだった。自分たちが座っている観客席は射位からは結構離れていたのにもかかわらず見入ってしまったし、動画やテレビで見ていた選手が出場していて、遠目でも迫力が伝わってきた。そんな人たちが引いた場所で一手だけでも引くことができたのは貴重な経験だったと思う。

そして10月には、争覇、という大会があり、リーグごとに負ければI部とII部、II部とIII部といった入れ替え戦がある進退がかかったもので、僕はその大会に出場することができた。大会が始まり、前からわかってはいたがI部の大学はどこもとても強く一戦も気を抜けなかった。しかし僕は良い的中を維持できず、思うような的中を出すことができなかった。交代こそされなかったが、I部で戦うには今一つ足りなかった。結果II部との入れ替え戦となり、そこで勝てばI部に残留できたのだが、僅差で敗北、II部に降格してしまった。それが決まったときは、現実を受け止められなかったからか、その場からすぐに動くことができず固まってしまった。あんなに悔しい思いをしたのは初めてだった。せっかく出させてもらったのに勝てるところで勝てなかった。選手になったことに満足してしまいどこかで気を抜いてしまったのか。もったいない外し方をしてしまったと後悔し、自分の不甲斐無さを責めた。

終わったことを言っても仕方ないし、綺麗事かもしれないが、この気持ちは忘れてはならないとも思った。同じように後悔しないためにも今後の練習をより一層頑張っていきたい。

柄にもなく割と真面目に書いてしまったが、合宿など他にも行事がある分ここには書ききれないくらい楽しかったこともたくさんあったし、一年生に関しては、すでに社畜化して

いる人やサイコパスな人、ゲームに魂を売った人やすぐ奇行に走るUVERで腹ペコでSHISHAMOな人、レガシィの使い手、ジムニーの使い手、ジムニーの使い手が繚り出すダジャレを辛辣且つ的確に批評する人、使い手ではないがそのジムニーのクラッチやアクセルを積極的に蝕む人に加え、1年生ほぼ全員から出禁を食らいながらもラーメンとメルカリとエビ中のために魂を削りながら懸命に生きているカロリー爆弾の異名を持つ人などなど、過去最高レベルでキャラクターが濃い人ばかりで、おかげでほとんど暇になることなくここまでこられた気がする。僕にはコンパ隊長という役職があるが、いろいろ危ない時はこういった人たちに助け舟を出しながら、弓道部の一員としてこれからも楽しくやっていけたらと思う。

あ、カレーが食べたくなくなった人は是非サイコパスな人、通称S君の所へどうぞ。